

ニセ旗作戦とは何か？

平和統一 NEWS No. 78 (2015/2月号)

渡辺 久義

「ニセ旗作戦（攻撃）」False Flag Operation という言葉は新聞でもテレビでも決して使われない。しかしこれはインターネットの世界では、最近ますますよく使われる重要な時局用語の一つで、これを知っておかないと、今世界で何が起きているのかさっぱりわからないだけでなく、自分の国や身を守ることも難しくなるであろう。（今のところ我が国は、2人の人質を通じて世界の混乱と関わっているだけだが、やがてそうはいかなくなると思われる。）

ラリー・チンという人の（「私はシャルリだ」をもじった）論文「私はCIAだ」にある説明がわかり易い——「人目を引く残虐行為を実行せよ、または起こるようにせよ。それを、選んだ敵の仕業にせよ。ウソだらけの公的物語を発表し、それを企業メディアに繰り返させよ。無知な、好戦的な大衆を怒らせ、憎しみを掻き立てよ。そうすれば戦争屋「帝国」政策計画者と彼らの犯罪実行者たちの、思い通りの結果が得られる——つまり公的な承認のハンコをもらった戦争だ。」

これは卑怯かつ残虐で、敵も味方もなく、とにかく戦争を起こしたいという「戦争商人」のやり方だとわかっていただけだと思うが、これが——アメリカをあくまで正義の国と違ってこられた方々には悪いが——アメリカの伝統的な常套的戦術であったことが、最近わかってきた。典型的で最大の例は「その後のすべての紛争の父」と言われる2001年の9・11テロだが、昨年7月17日のマレーシア航空機撃墜事件も明らかにそうであり、先日のパリの風刺雑誌社襲撃事件も、その疑いが濃厚のようである（引用した論文はそれを主張するものの一つ）。

中には、ケネディ大統領当時の「ノースウッズ作戦」のように、極秘扱いが解除されて、計画書の生々しいタイプ原稿がネット上で読めるものもある。この時の敵はキューバだが、よくこれを公表したと思えるほど、事細かに陰謀の手順が説明してある。これがケネディに提出されたとき、彼は驚いて参謀長をクビにしたため実行には至らなかったが、彼は間もなく暗殺された。（詳しくは、2014/4/24「370 便機：陰謀団の背骨を折る最後のわら？ 1-4」を参照）。米西戦争、第一次大戦参戦、真珠湾攻撃、ベトナム・トンキン湾事件などすべてそれである。最近、極秘扱いを解かれた「グラディオ作戦」もそうで、これは冷戦中、ヨー

ロッパで何度か起った一般市民爆殺事件。これは CIA と西側政府がやり、ソ連や極左の仕業だと宣伝したもので、ほとんどの人がそう信じていた。CIA の拷問も最近、追及されるようになった。

彼らは別に完全犯罪を狙っているわけではないと思われる。ヒトラーがポーランドに対し開戦したときの例が参考になる。彼は自国の囚人たちにドイツ軍服を着せ、射殺してポーランド国境にばら撒き、国境のドイツ側の建物を破壊させた。これをヒトラーが幹部に提案したとき、その一人が「そんなことをして、もしバレたらどうするのか」と聞いた。ヒトラーは「我々はどうせ勝つのだ。勝利者が裁かれることはない」と答えた。

7・17 マレーシア機撃墜でも、彼らはあまり細かいことは気にしていないように見える。ロシアとウクライナ反政府軍がやったという報道が、ひとたび世界をかけめぐり、人々の何割かを騙せたらそれでいいようだ。現にこの事件はもうどうでもよくなり、彼らは次々と、矢継ぎ早に事件を起こし、注意を奪うことに専念している。即刻、ロシアをウクライナ侵略者と宣伝し、西側の対ロシア経済制裁が始まった。9・11 の場合も、真実を調査することなく、ほとんど時間をおかずに、米軍のイラク侵攻が始まり、現在は、自分が作り出し、手に負えなくなった過激派と戦っている。

これは彼らの戦術であって、その戦術も隠そうとはしていない。2010 年のロックフェラー財団による“未来のシナリオ”という文書には、「大規模な破局的な出来事が、これほど息つく暇もなく起こる世界に対して、誰も心の準備をしていなかった」と、この文章の文脈上、過去形で書かれている。また同じ主旨でこうも言われている——「このような危機を次から次へつくり出すことによって、あらゆる場所の住人たちが、自ら身を処しこれらの危機に“対処”しきれなくすること。これによって人々は混乱し消沈し、…大規模な麻痺が生ずるであろう」（“陰謀団のヒエラルキー：300 人委員会物語”）デイヴィッド・ロックフェラー自身も、「我々は地球的な大変革の只中にいる。我々が必要としているのは正しい種類の危機だけである。それがあれば諸国家は NWO（陰謀団による新世界秩序）を受け入れるであろう」と言っている。これは別の言葉でいえばこうなる——「トラウマ的な状況を作り出した後で、作った者たちが進み出て、大衆の救済者として振舞うであろう」（“25 項目のイルミナティ目標” #14）

対処は簡単である——彼らの手に乗らないこと。今後どんなに恐ろしい混乱が起こっても彼らは必ず失敗するのだから、判断を誤らないことである。